

J-ARCHITECT

JAKUETS ARCHITECTURAL DESIGN MAGAZINE

ジェイアーキテクト

VOL.04

熊野田幼稚園〈大阪府〉／ けいなん保育園〈岐阜県〉



Photo: 熊野田幼稚園 (大阪府)

JAKUETS



CASE:1

個性的な間取りが楽しい、屋内に坂のある園舎

学校法人 育保学園 熊野田幼稚園 様

大阪府豊中市の学校法人様が1963（昭和38）年から運営する幼稚園は、園舎の一部に耐震対応の建て替えが必要となり、新園舎は限られた工期の中、既存園舎を残したまま、高低差のある特殊な形状の敷地での建設となった。それら難しい条件の数々を、1階の廊下全体をつなぐスロープや直線と円弧を組み合わせた間取りの保育室など設計上の工夫で乗り越えた。フロアごとに特徴の異なる屋内空間は、子どもの主体性を尊重する園の教育理念を体現して、園児たちに日々新鮮な体験を提供している。

学校法人 育保学園 熊野田幼稚園 様

所在地：大阪府豊中市

主要用途：幼保連携型認定こども園

定員：364名

竣工：2018年3月

《園舎概要》

構造：鉄筋コンクリート造3階建

敷地面積 / 2,169.12㎡

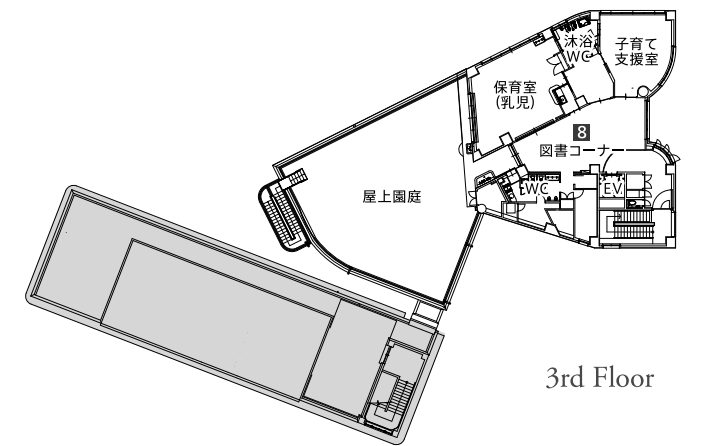
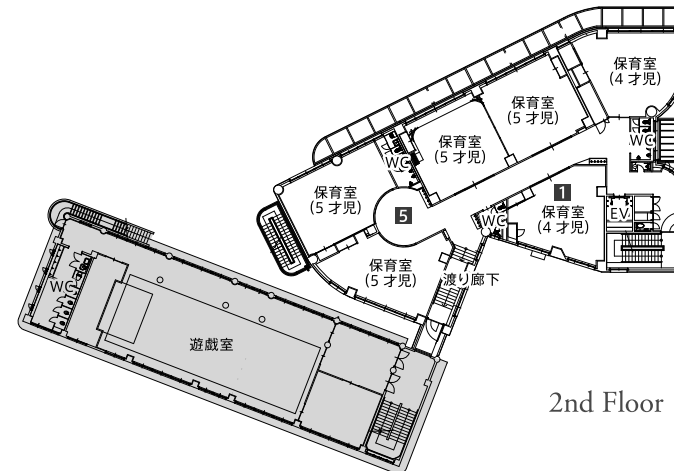
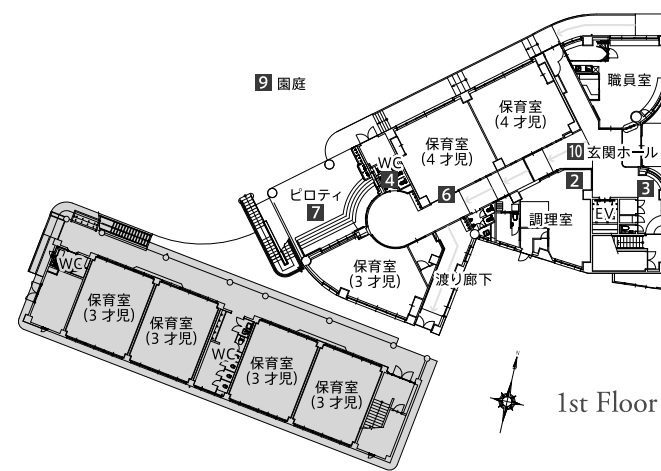
延床面積 / 1,645.19㎡（新築部）、2,366.10㎡（既存部含む）

建築面積 / 702.74㎡（新築部）、1,089.59㎡（既存部含む）



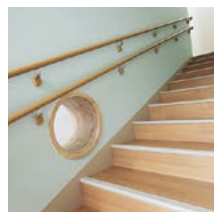
制約を逆手に取って、 保育室を多彩な形状に

新園舎の手前（平面図右側）の玄関部分に対して、奥（同左下側）の既存園舎と接続する部分は高さが2m弱低く、発生する高低差の問題を1階廊下をスロープにすることで解決し、部屋の床の高さの違いを活かした立体的な構造も取り入れた。三角形を組み合わせたような形状の建設地に合わせて、保育室も部屋ごとに異なる間取りでデザインし、円弧状の引き戸なども用いている。解体した旧園舎部分は園庭として整備し、大型遊具や砂場のほか、ビオトープも設けて、住宅街の中で園児たちが自然と触れ合えるスペースとした。



□ 新園舎 □ 既存園舎

1 2F保育室／家具の配置などの工夫で三角形の間取りも無駄なく活用。2 調理室／内部は床が一段低く、調理スタッフと、廊下からのぞく子どもたちの視線が同じ高さ。3 玄関ホール横／園内と園外をつなぐ窓は、季節に合わせた絵本の展示コーナーに。4 トイレ／楽しさとスタイリッシュさを両立したトイレの内装は、フロアごとにテーマが異なる。5 2F保育室前／アール（円弧）の引き戸を採用した円形の共用スペースは、クラスをこえた交流の場に。6 1F保育室前／戸や壁にのぞき窓を設けて、保育室と廊下を視線で結んだ。7 ピロティ／園庭への出入口として、ウッドデッキの広々としたスペースを用意。8 図書コーナー／直線と円弧による特殊な形状の広間の中央に、同じく直線と円弧で構成された本棚を設置。本の壁で囲まれた、落ち着く空間に。9 園庭／大型遊具や砂場のほか、ビオトープも設置し、多様な過ごし方ができる。10 玄関ホール／調理室前から奥へ続く広い廊下は緩やかに下るスロープとなっており、床の高さの異なる各部屋をつなぐ。



ユニークな園舎が園の教育を体現する——

学校法人育保学園は創立から半世紀を超える熊野田幼稚園を中心に、隣接するくまのだ保育園に加えて、近年は3才未満児対象の保育施設を2つ開園し、地域の乳幼児に対する教育と保育の充実を図っている。2016年、熊野田幼稚園の2つの既存園舎のうち、築43年に達していた古い園舎が最新の耐震基準を満たしていないことが判明し、園は18年4月に認定こども園に転換するタイミングでの建て替えを決定した。

「新しい園舎をジャクエツにお任せしたのは、行政への手続きなども含めた園舎づくりのノウハウが豊富だったことに尽きます。なぜなら、とても困難な状況での設計や施工になることが予想できたからです（友園理事長）」

こども園の開園に向けて、18年3月までの竣工が必須だったことに加え、建設中も保育場所を確保するため、解体予定の園舎を残した状態で施工する必要がある、新園舎に使える土地は高低差がある上に特殊な形状にならざるを得なかった。それでも園の「画一的な保育室にたくない」との思いも受けて、制約の中で要望にこたえる設計案を検討した結果、三角形や四角形に円形も取り入れたユニークな保育室の数々が提案された。

「当園には園児自身が園内の好きな場所で遊ぶ『コーナー遊び』の時間があります。さまざまな形の保育室ができたことで、子どもたちの選択肢が広がり、教育内容に合った園舎になりました（友園理事長）」



高低差は段差ではなくスロープでつないで、既存園舎と連続した空間づくりを実現した。独特な構造の建物となったものの、施工会社の協力などもあって、竣工は18年3月に間に合わせる事ができた。理事長はビオトープ付きの園庭も含めて、「子どもたちがあちらこちらへ動きまわって、日々の体験や実感を深められる園舎になった」と喜ぶ。

「園児が新しい園舎を生き生きと使ってくれていることが何よりもうれしい。ジャクエツをはじめ、子どもたちや保護者の皆様、職員や地域の皆様……関わったすべての皆様のおかげで素晴らしい園舎が完成しましたことに感謝し、日々教育に研鑽してまいります（友園理事長）」

敷地の制約に対しては、理事長先生の「子どもたちの居場所となる空間は多様なほうが面白い」との考え方にも後押しされて、かなり思い切った形状の間取りを提案させていただきました。現場の先生方とも設計から施工まで連携を密に取り合ったことで、現場からの要望を細部まで取り入れながら、設定された工期内に工事を終えることができました。実際に完成後の園舎では、先生方がコーナー遊びの空間を、各保育室の形状に合わせて上手に配置されていて、室内空間の活用の参考例にさせていただきたいほどです。厳しい条件と向き合いながらの建設でしたが、新しい園舎で園児たちが笑顔で過ごしている姿を見て、苦勞が報われた思いを感じています。

大阪設計事務所

PROFILE

学校法人 育保学園
理事長 友園 富夫 様

1966年生まれ。大学院修了後学校法人育保学園に入職。くまのだ保育園長を経て、2013年から理事長を務める。

室名プレートなどに園名にちなんだ熊のマークをあしらっている



調理室と廊下の床の高さの違いは、子どもと調理スタッフをより近い距離で結ぶ



円形のホールからピロティ、そして園庭へと空間が広がる



低い場所にある既存園舎とは、スロープや階段の渡り廊下でつながる



CASE:2

子どもたちの元気が輝く、 広々と明るい太陽のような園舎

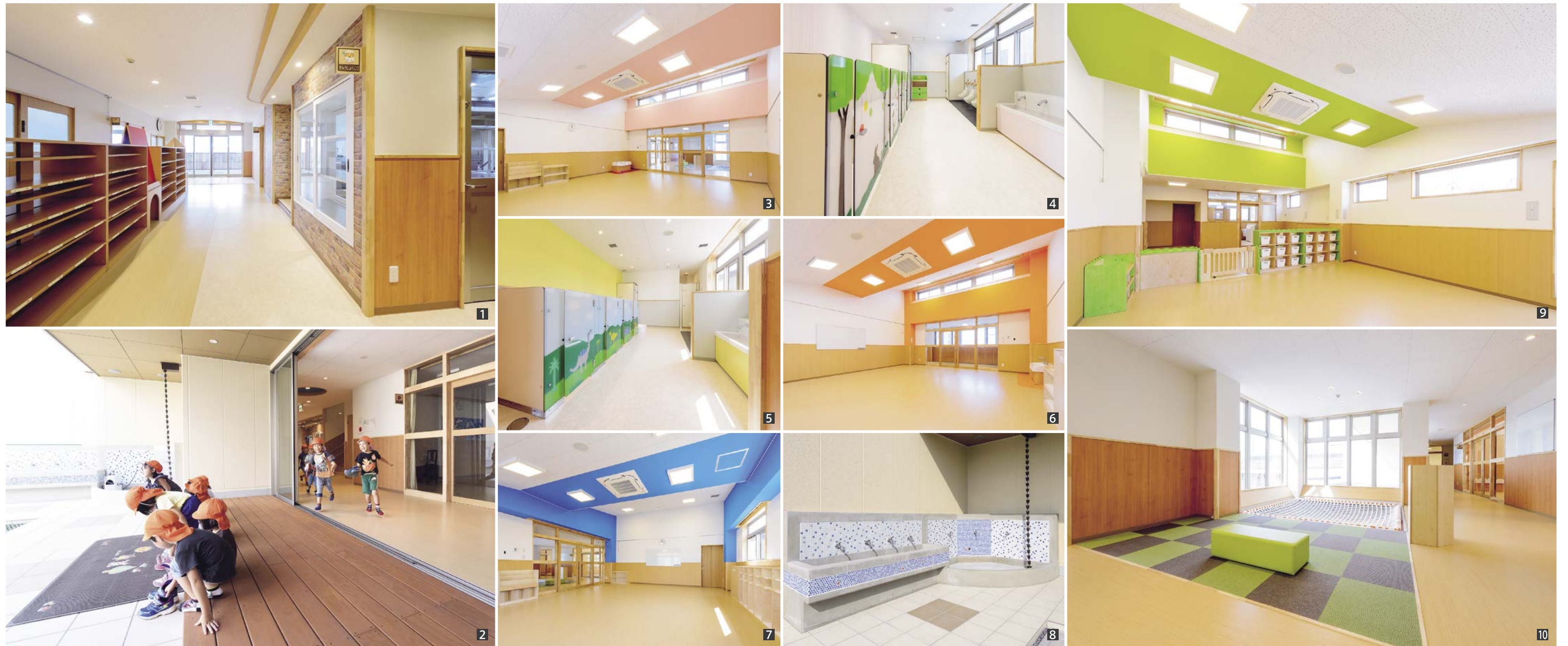
社会福祉法人 村の木清福会 けいなん保育園 様

設立から78年の歴史を持つ岐阜県多治見市の保育園様。老朽化が進んでいた園舎の建て替えを行い、実際の保育に合わせた環境を整えた真新しい園舎が完成した。設計の初期段階から、園のロゴマークやキャッチフレーズを制作しながら、事業は進行した。カフェレストランをイメージした厨房前のエリアや、ネット遊具で上下の階がつながる吹抜などのアイデアを盛り込み、子どもたちの元気が輝く、明るく開放的な空間を実現した。

| | |
|-------------------------|----------------|
| 社会福祉法人 村の木清福会 けいなん保育園 様 | |
| 所在地：岐阜県多治見市 | 《園舎概要》 |
| 主要用途：保育所 | 構造／鉄骨造2階建 |
| 定員：102名 | 敷地面積／2,068.24㎡ |
| 竣工：2018年6月 | 延床面積／883.02㎡ |
| | 建築面積／682.53㎡ |



それぞれ築58年(左)と39年(右)が経過していた旧園舎。一体的な建て替えて保育環境の充実を図った。



1 エントランス／玄関からつながる幅広い廊下に面して厨房を計画し、園児が内部の調理の様子を観られるようにした。2 園庭テラス／園庭へスムーズに出られる。3 3階の保育室／屋根の傾斜に合わせた勾配天井により、開放的な空間とした。天井と壁のアクセントとして、クラスごとのイメージカラーを採用。4 5 トイレ／楽しい絵柄で彩った園児用トイレ。6 手足洗い場／地元の特産品であるモザイクタイルを使用した外部の手足洗い場。7 吹抜&絵本コーナー／廊下と直結する吹抜に、プレイコーナーとしてネット遊具を設置した。

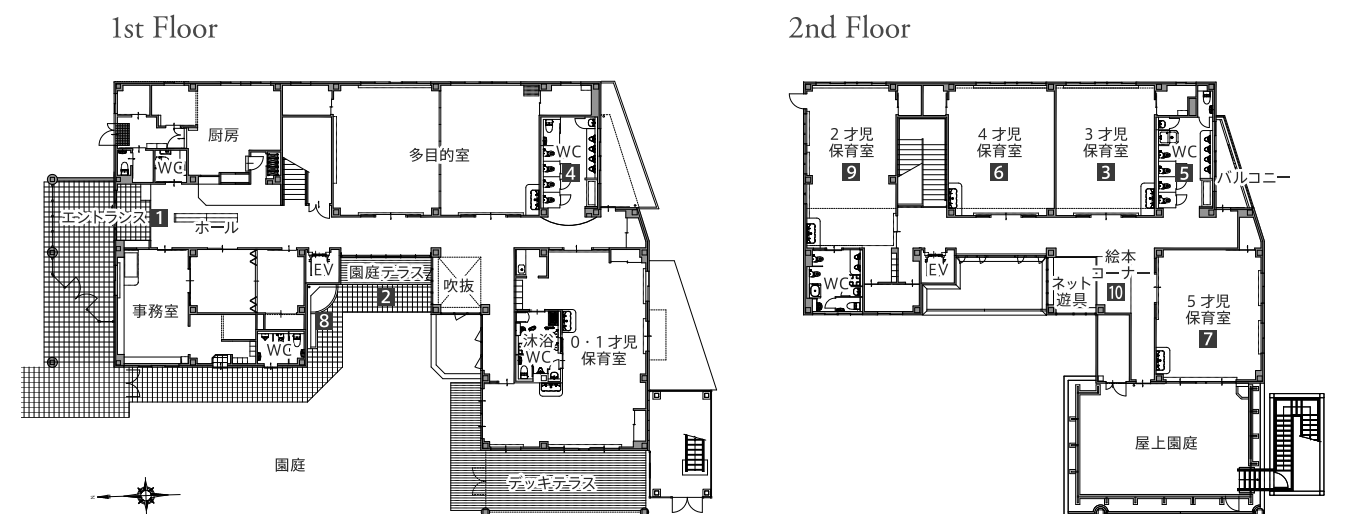
統一感の中に個性光らせ、 園児たちを大らかに育む

園児たちが過ごす2階の保育室には勾配天井を採用し、上部の明かり窓を可能な限り多く組み込むことにより、明るく開放的で、子どもたちにとって居心地の良い空間となるように計画している。

また、子どもたち自身が興味の対象を見つけ、選択できる力を育むことができるように、建物の内と外、そして人と人とのつながりを、自然に意識できる間取りの構成とした。



0・1才児保育室につながるデッキテラス



園舎が地域との新たな歴史を描く——

目指す保育環境のイメージを共有し、園との信頼で創造した快適空間

1950年に広見保育園（現・ひろみ保育園）を開園し、岐阜県可児市を中心に乳幼児保育に尽くしてきた村の木清福会は、2017年4月、同県多治見市で開園78年を迎えるけいなん保育園の運営を引き継いだ。既存園舎はその時点で老朽化が進んでいたため、ほどなくしてジャクエツによる園舎の建て替えに向けた設計がスタートした。

「当法人のほかの園舎づくりにおいても、私たちの想いを形にして、何より子どもたちに快適な建物にさせていただいていました。ですから、今回もジャクエツ以外に設計をお願いすることはまったく考えていませんでした（大雅理事長）」

建て替えの設計にあたり、あらかじめ決定した「ずっと元気といっしょ」のキャッチフレーズに基づいて、明るく活発に過ごす子どもたちのイメージを園とジャクエツとで共有。現場の保育士とも意見交換し、外観や内装の方向性を明確にして設計を進めた。

また多治見市では、絵画や粘土、食育などの教

育に力を入れていることもあり、「『地域の特性を採り入れる』ことを求めました（大雅理事長）」。絵画については、5才児クラスの子どもたちが毎年180センチ×90センチの板に描いている絵を外周のフェンスに掲示。粘土は美濃焼の産地として知られる多治見市で生産されたモザイクタイルを、外壁のほか、外部の手洗い場やエントランスポーチ脇の園名看板にも採用した。さらに食育の一環として、調理の様子を身近に見せることが食べる楽しみにつながることを意図して、調理室をエントランスホールに面した位置に配置した。

それらの要望にこたえることができたのは、ジャクエツが担当者のそれぞれの想いを一つの形にできるよう連携しながら、設計・施工に取り組んできたことによる。「ひろみ保育園にここ」の新築、「ひろみ保育園すくすく」の大規模改修、「はぐみの森保育園」の新築に続いて、「けいなん保育園」の新築にも携わり、さらなる地域への貢献を見据える法人の良きパートナーとして寄り添っている。



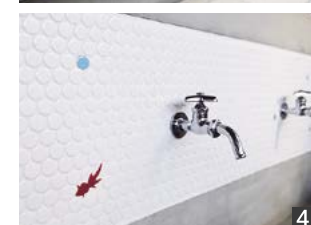
社会福祉法人 村の木清福会
大雅 峰宏 理事長



けいなん保育園
松原 明美 園長先生



異なるフロア間に一体感をもたらすネット遊具の吹き抜け。安全性を確保しながら、上下階を貫く空間の広がりを作り出した。



1 カフェをイメージした厨房前。2 ログマークの太陽を中心に、オリジナルデザインをした門扉。3 4 5 外部の手洗い場のモザイクタイルの一部に、金魚やハスの葉のアクセントタイルを採用。6 2階の廊下からつながる屋上園庭。夏場にはプールの設置もできる。

【ONE・JAKUETS】

けいなん保育園の新築では、設計統括の澤村を中心に、設計担当の堀、福本（以上、名古屋設計事務所）、営業担当の中島（多治見店長）がチーム。園や法人との連携を密にしながらチームとなり、園が目指す保育を可能とする園舎設計に取り組んだ。



設計士コメント

村の木清福会様の運営する園舎を手掛けるのは今回で4件目となり、これまでに培われたお客様との信頼関係がスムーズな設計につながったことに感謝しています。

建物の内外のデザインに遊び心を盛り込みながら、広くて快適な空間づくりを追求できました。「今まで以上の園舎が出来上がることを楽しみにしています」という大雅理事長のご期待に沿えることができたのではないかと思います。

ロゴマークの太陽のように、子どもたちを明るく見守り続ける園舎として、今後も地域の皆さまに親しんでいただきたいと願っています。

名古屋設計事務所 澤村 宏

地域の未来の “種”を育てる法人として——

村の木清福会は1950年から保育施設の運営を手掛け、子どもたちの夢と可能性を育むことを通じて、未来の地域社会を支える“種”を芽吹かせる事業に取り組んできた。時代の移り変わりに対応した保育を提供すべく、2013年には広見保育園を「すくすく」と「にこにこ」に分園。2017年には「はぐみの森保育園」の開園と「けいなん保育園」の運営を引き継ぎ、2018年現在、計4か所の保育園を運営している。

「保育園や幼稚園は、卒園した子どもたちがその地域に関わり続ける窓口になります。私たちは地域の方々から共感と信頼が得られる社会福祉法人として、地域社会に貢献し続けていきたいと思っています（大雅理事長）」。創立100周年に向け、村の木清福会の新たな取り組みが幕を開けている。



社会福祉法人 村の木清福会
理事長 大雅 峰宏 様

2009年、広見保育園の園長に就任。2016年より法人理事長を務める。臨濟宗妙心寺派・西福寺の副住職も務める。



所在地：岐阜県多治見市十九田町

開園から80年近い歴史を誇り、地域に親しまれてきた保育園の運営を2017年に継承。正しい生活習慣を身につけ、心豊かな人間性を育み、主体性・協調性を引き出す保育を行っている。



社会福祉法人
村の木清福会
地域の未来のためになる

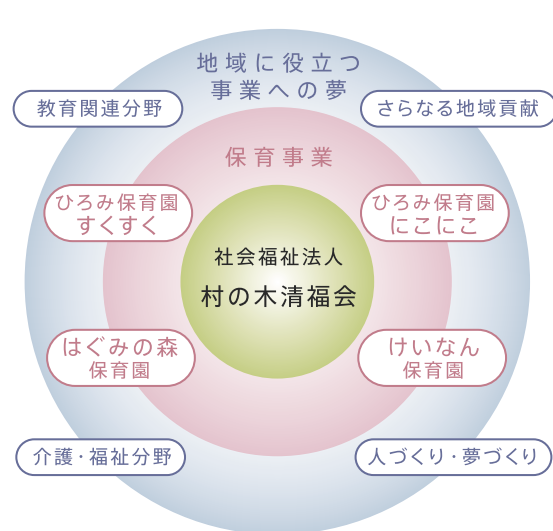
【法人理念】

地域の人々に共感と信頼を得られる
社会福祉事業を行い、
住みやすい地域づくりに貢献し続けます。

【主な沿革】

- 1950（昭和25）年 広見保育園を開園
- 2013（平成25）年 広見保育園にこにこ竣工
- 2014（平成26）年 広見保育園すくすく大規模改修
- 2016（平成28）年 ひろみ保育園へ改名
- 2017（平成29）年 はぐみの森保育園を新設・開園
けいなん保育園の運営を別法人から移管
- 2018（平成30）年 けいなん保育園の新園舎が完成

【活動方針】



ひろみ保育園 **すくすく**
所在地：岐阜県可児市広見

広見保育園として開園以来、成長のための環境づくりを大切にしながら、地域に根差した保育を提供してきた。2013年の分園に伴い、園舎は以上見棟「すくすく」となり、14年に大規模改修が完了した。園庭の遊具「ビッグツリー」が印象的。



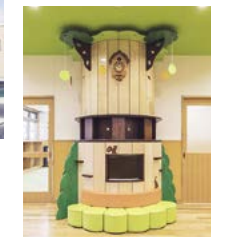
ひろみ保育園 **にこにこ**
所在地：岐阜県可児市中恵土

2013年に広見保育園の未満見棟として新設された。成長の早い3才未満児に対応して、園児の月齢に合わせた遊具や設備を採用している。園舎は屋根の緑に加えて柱の朱色が外観を彩る。



はぐみの森 **ほいくえん**
所在地：岐阜県可児市場

2017年に可児川沿いの緑豊かな敷地で開園し、隣接する高齢者福祉施設との連携行事を実施するなど、思いやりの心を養う保育に取り組む。「森」を感じさせる空間となっている。



設計事務所 ARCHITECTURE OFFICE

子どもたちが主役の「宮殿づくり」

ジャクエツの園舎設計のコンセプトは“子どもたちの宮殿づくり”。
 これまでに、幼稚園・保育園専門の設計事務所として、
 500園以上の園舎を設計させていただきました。
 プランニングからアフターフォローまで、
 子どもたちの成長を第一に、それを支える職員の皆さまを
 施設設備の面からサポートいたします。

株式会社ジャクエツ環境事業 一級建築士事務所



東京設計事務所

東京都知事登録 第44805号

〒108-0074 東京都港区高輪4-22-4
 TEL 03-5789-1100

名古屋設計事務所

愛知県知事登録(い-27) 第13105号

〒460-0012 名古屋市中区千代田5-11-32
 TEL 052-265-2730

宇都宮設計事務所

〒320-0847 宇都宮市滝谷町20-17
 TEL 028-614-5070

大阪設計事務所

大阪府知事登録(イ) 第24853号

〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3-11-3
 TEL 06-6471-3939

横浜設計事務所

〒221-0865 横浜市神奈川区片倉2-22-1
 TEL 045-488-6253

広島設計事務所

広島県知事登録17(1) 第5246号

〒730-0843 広島市中区舟入本町6-21
 TEL 082-531-0770

福岡設計事務所

〒812-0896 福岡市博多区東光寺町2-8-31
 TEL 092-451-0117

JAKUETS